

## 令和5年度 第2回新型コロナウイルス等対策有識者会議 議事概要

- 1 日 時 令和5年12月25日(月) 15:30～16:50
- 2 場 所 兵庫県災害対策センター 1階 災害対策本部室
- 3 出席者 宮良委員、西口委員、楠委員、鷲見委員、柏樹委員、紅谷委員、秋元委員、勝沼委員、茅野オブザーバー
- 4 議事事項 兵庫県新型コロナウイルス感染症対策検証報告書(取りまとめ案)について 等

### 5 議事概要

#### (1)兵庫県新型コロナウイルス感染症対策検証報告書(取りまとめ案)

##### ① 事務局からの説明

兵庫県新型コロナウイルス感染症対策検証報告書(取りまとめ案)の概要等について、事務局から説明した。

##### ② 委員等からの主な意見

#### 【全 体】

- 治療薬やワクチンがあって病態も明らかな今の新型コロナのような前提で記載されているが、パンデミックは、感染力や感染経路が不明で治療薬も無い中で始まるものなので、感染症の全容が不明な初期にどう対応したかをもう少し詳細に記載すべき。
- 本体P148(概要P8)の「国の指針を踏まえつつ」という記載について、この社会活動に限らず医療分野などでも同じだが、可能であれば「国や国際機関の指針を踏まえつつ」とできないか。

#### 【医療提供体制】

- 本体P53の【教訓・課題】①の冒頭に「実際に患者を診ていない」と追記できないか。
- 感染者数の増加に伴い、周囲への感染拡大を防ぐために保健所が行う無症状者を含む勧告入院から、個々の患者の医療の必要性に基づく入院調整に移行した段階で、地域での医療機関間の役割分担を明確化し、各入院医療機関での入院受け入れ状況に関する情報を迅速に医療機関間で共有した上で、入院調整は基本的に医療機関間で行い、行政がバックアップする形が望ましい。行政がバックアップする際もできる限り入院調整センター等での一元対応とし、保健所は保健所でないといけない業務に注力する必要がある。本体P265(概要P12)の「検証を踏まえて今後取り組んでいく事項」の「①医療提供体制の確保」について、「入院調整に対する支援体制の強化」を「入院調整に対する支援

体制の確保」とし、具体の対策を「入院調整困難時の行政によるバックアップ機能の確保」としていただきたい。

- 本体P266(概要P13)の「今後取り組んでいく事項」の「③人材・物資の備えと確保」について、「専門的な知識を有する医療従事者」だけではなく、専門職以外の医療人材の確保についても記載が必要。
- 「救急医療搬送の困難件数」、「宿泊療養から自宅療養にシフトチェンジした時期にどのような対策を取ったのか」「社会全体での感染のピークの際に医療従事者の感染者数もピークになり、医療従事者が出勤できず医療提供体制が縮小したこと」など、定量的な表・グラフや評価などを追記してはどうか。

#### 【検査・療養体制】

- 検疫に関しては、地方にもできることはあるので、やはり情報共有が重要。

#### 【生活】

- 本体P143・144(概要P7)に、「インフォデミック」(ネットなどで噂やデマも含めて大量の情報が氾濫し、現実社会に影響を及ぼす現象)を追記してはどうか。

#### 【社会活動】

- 次回の感染症危機の際にまた公共交通機関が事業継続できるかは不明なので、そういったリスクについて記載するとともに、リスクを念頭に置いた体制づくりが必要。

#### 【体制】

- 人材も資源も足りない中での対応は、災害対応に近いと思うので、「災害対応に準ずる形での体制を構築」などと記載し、兵庫県としての特徴を出してはどうか。保健所業務支援の職員派遣などでも、保健部局だけでなく全庁で対応したと思うので、そういった事実を記載すべき。
- 本体P148(概要P8)の「独自に専門家の助言を得られる体制」は非常に重要。例えば、知事メッセージでも、他府県と判断が異なって混乱が生じたこともあったので、エビデンスに基づくものであることが重要。国の専門家会議・分科会・アドバイザリーボードのように、県でも情報発信に際して専門家の助言を得られる体制を整備すべき。地方自治法を見直し、非常事態における国の地方自治体への関与を強める動きもある中、地方自治体として国の指示をどう受け止めるべきかを根拠を持って判断できるようにするためにも、専門家の助言は必要。
- 本体P148(概要P8)の「専門家の助言」について、感染症の専門家だけではなく、社会科学や経済などの多彩な分野の専門家に助言を求めるべき。

## 【広報】

- 政府行動計画の見直しの目標として「基本的人権の尊重」が挙げられている中、知事メッセージにおいても「人権への配慮」、「社会的弱者への視点」、「差別・偏見の防止」などに配慮していく旨記載してはどうか。
- マスコミの影響力は大きく、何か報道された後には県民からの問い合わせも激増する。知事メッセージに加えて、正しい情報をあらゆる手段を使って伝える姿勢が重要。

## 【その他】

- 感染が収まった時期に聞き取った県民からの意見は、感染拡大期の県民の意見とは温度差があるように感じるので、感染拡大期に広聴に寄せられた県民意見等のデータがあれば、それと比較することでそのあたりの温度差が分かるのではないか。
- 各施策について、インプット(予算)とアウトプット(事業等)のデータをアーカイブに掲載できれば、今後、研究者がアウトカムを評価する際に役に立つのではないか。
- 検証報告書を今後どのように生かしていくかについて、もう少し丁寧な記載があった方がよい。
- 次回の感染症危機の際に協力を得られるかにも影響するので、検証報告書の巻頭言などで、知事からエッセンシャルワーカーなどへの感謝や労いの言葉を記載してはどうか。

## (2)その他

宮良会長から、「本日の意見を踏まえた対応の確認については、一任してほしい」旨の提案があり、了承された。